

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：平成29年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業 216社
3. 内 訳：製造業55、卸売業25、小売業31、運輸・倉庫業24、観光・サービス業46、建設業35
4. 調査方法：調査票によるアンケート
5. 回答企業数：131社（60.6%）
6. 調査概要
 - (1) 本調査は、小樽商工会議所が市内企業の協力を得て実施した、小樽市経済動向調査アンケートをまとめたものです。
 - (2) DIとある記号はディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目の好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことです。この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握しようとするものです。

全 業 種

前年同期（平成28年7月～9月）と比べた今期の状況
 今期と比べた来期（平成29年10月～12月）の予想

総 括

企業の景況感を示す業況判断DIは▲1.6で、前年同期と比べ4.6ポイント上昇、3期連続で改善しました。

産業別DIは、国内外の観光客による需要拡大で観光・サービス業が同11.4ポイント上昇の15.7、住宅等の建設需要が活発な建設業が同7.1ポイント上昇の17.6と好調で、全体の景況感を押し上げました。製造業、卸売業、小売業は、いずれも前年同期と比べ改善しましたが、水産資源の不漁による原材料不足・価格高騰、商圈人口の減少や個人消費の低迷などが懸念材料となっています。運輸・倉庫業は、入在庫量の減少による荷動きの鈍化、それに伴う運送料収入や荷役料収入の減少が響き、同17.6ポイント悪化の▲17.6となりました。

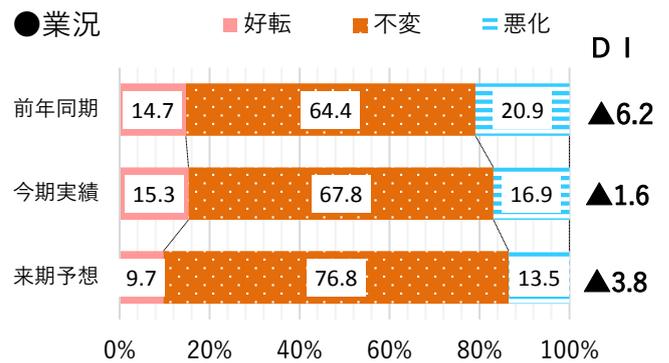
人手不足感を示す従業員数DIは▲2.3で、9月の日銀短観で発表された雇用人員判断DIの全道（▲40）及び全国（▲28）の指数と比べ不足感は弱いものの、本調査対象の6業種中4業種で「従業員の確保難」が経営上の問題点で第1位とされており、今後も同様の傾向が継続すると予想されます。

来期の業況判断DIは▲3.8で、今期と比べ2.2ポイント低下すると予想しています。業況の伸びを牽引した観光需要が、秋冬の閑散期を迎える影響とみています。また、深刻化する人手不足、衆議院解散に伴う国内政局の流動化、北朝鮮の核開発・ミサイル発射によるリスクなどが先行きの不安材料となっています。

業況、売上、採算

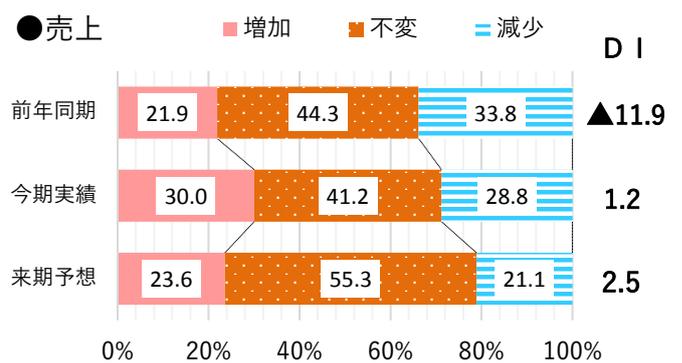
今期（H29.7～9）の業況判断DIは▲1.6で、前年同期と比べ4.6ポイント上昇しました。

来期（H29.10～12）のDIは▲3.8で、悪化すると予想しています。



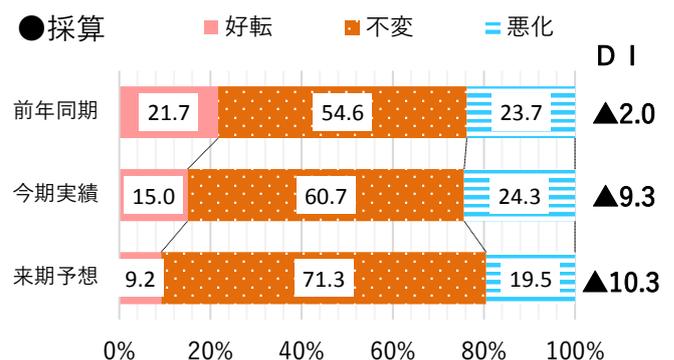
今期の売上高DIは1.2で、前年同期と比べ13.1ポイント上昇しました。

来期（H29.10～12）のDIは2.5で、増加すると予想しています。

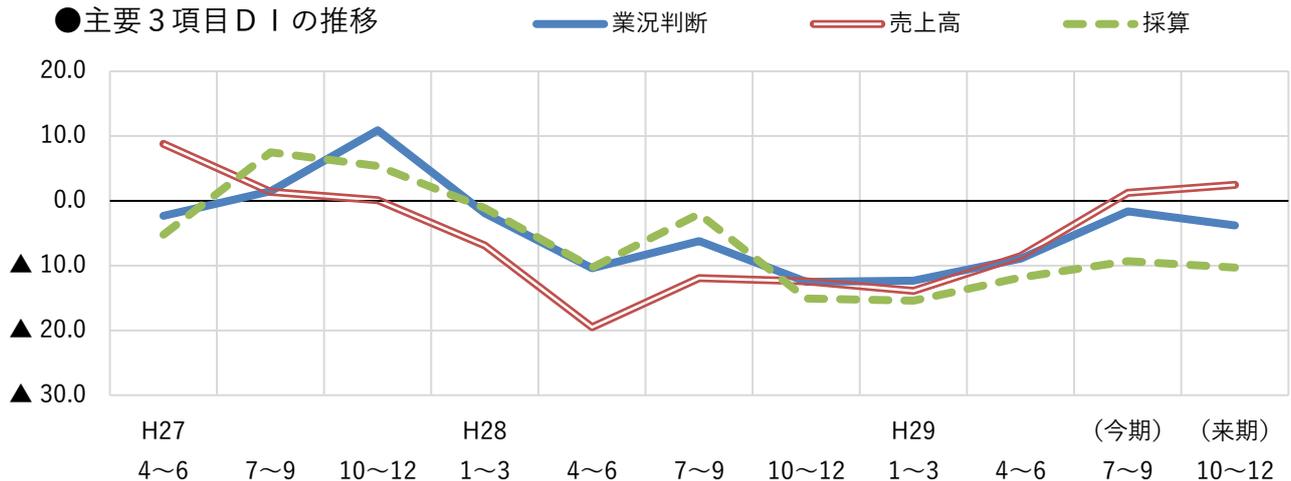


今期の採算DIは▲9.3で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

来期のDIは▲10.3で、悪化すると予想しています。



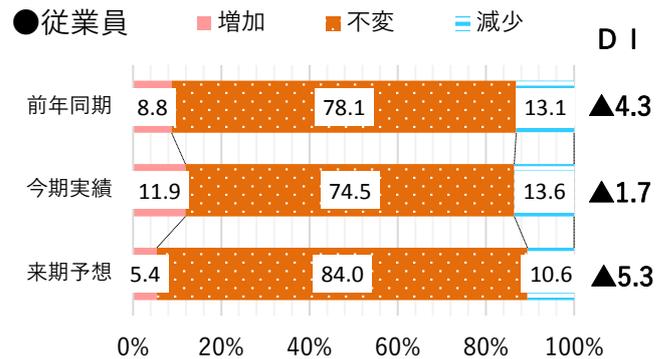
●主要3項目DIの推移



従業員

今期の従業員DIは▲2.3で、前年同期と比べ2.6ポイント上昇しました。

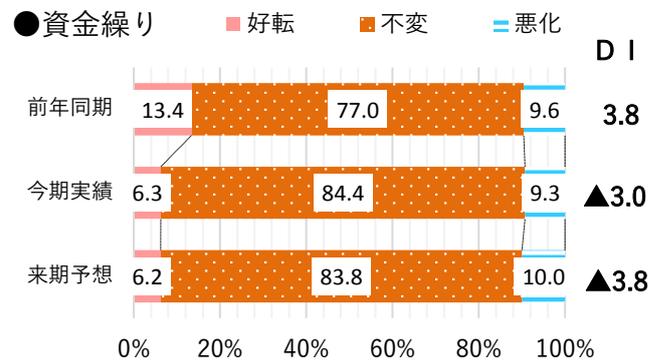
来期のDIは▲5.3で、人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

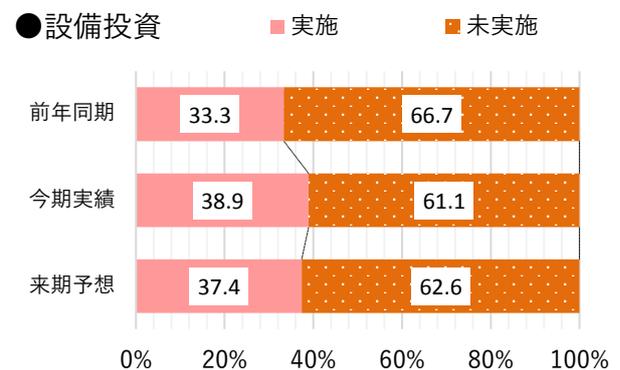
今期の資金繰りDIは▲3.0で、前年同期と比べ6.8ポイント低下しました。

来期のDIは▲3.8で、厳しさが増すと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった131企業のうち38.9%にあたる51社が実施、前年同期と比べ5.6%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物、OA機器（同位）」の順です。

来期は、37.4%（49社）が設備投資を計画していると回答しました。

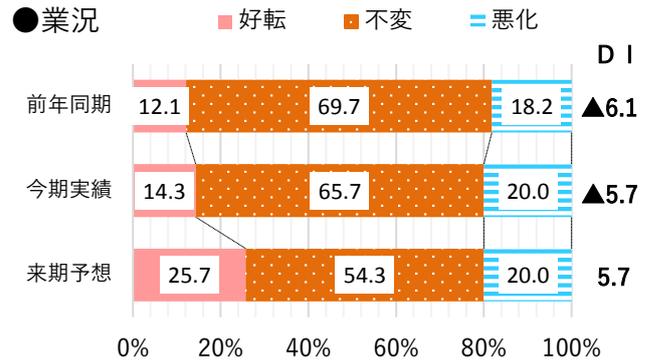


製造業

業況、売上、採算

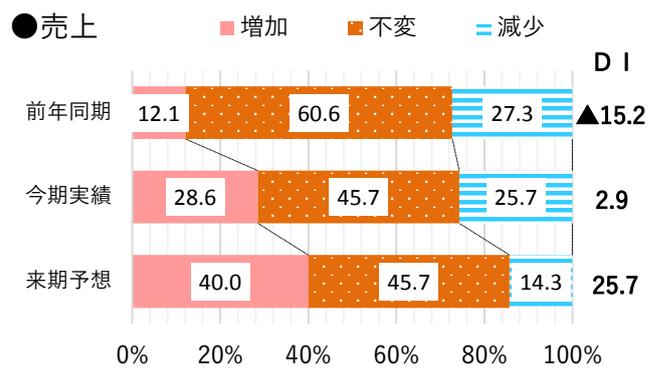
今期(H29.7~9)の業況判断DIは▲5.7で、前年同期(H28.7~9)と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期(H29.10~12)は5.7で、改善すると予想しています。



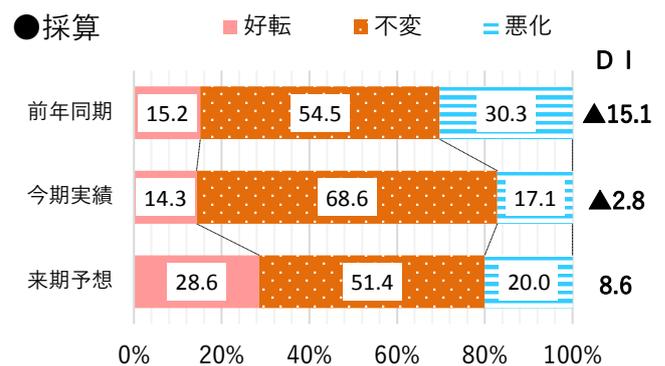
今期の売上DIは2.9で、前年同期と比べ18.1ポイント上昇しました。

来期は25.7で、大幅に増加すると予想しています。

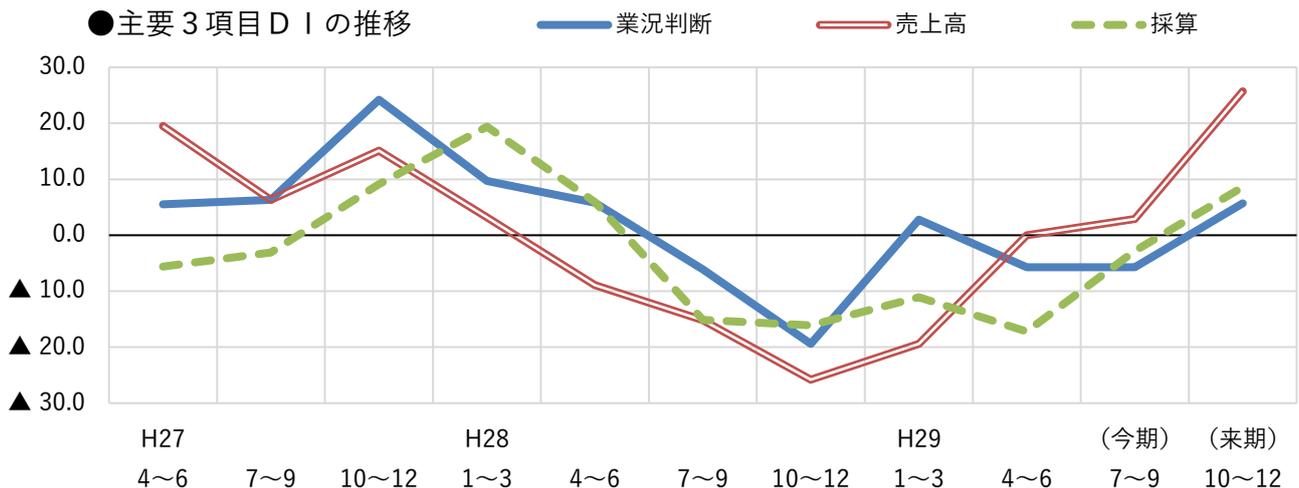


今期の採算DIは▲2.8で、前年同期と比べ12.3ポイント上昇しました。

来期は8.6で、改善すると予想しています。



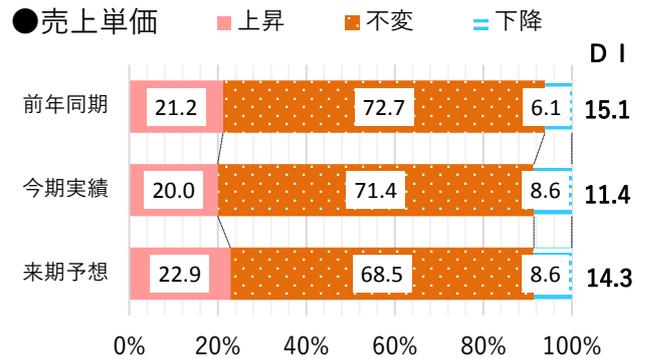
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価

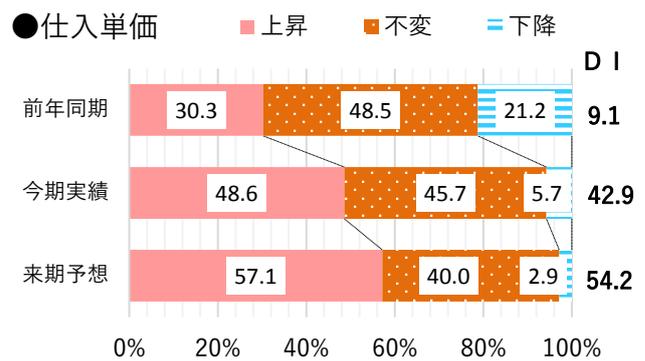
今期の売上単価DIは11.4で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は14.3で、上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは42.9で、前年同期と比べ33.8ポイント上昇しました。

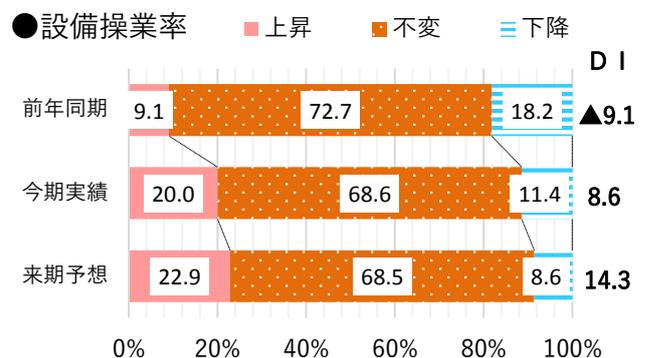
来期は54.2で、上昇感が強まると予想しています。



設備操業率、従業員

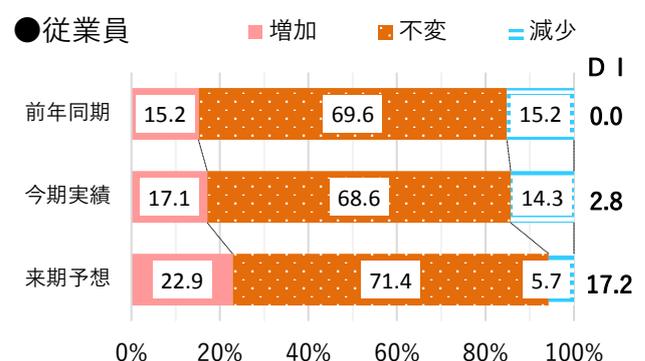
今期の設備操業率DIは8.6で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期は14.3で、上昇すると予想しています。



今期の従業員DIは2.8で、前年同期と比べ2.8ポイント上昇しました。

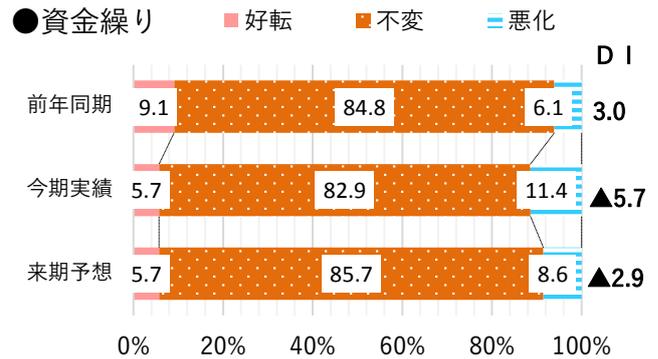
来期は17.2で、人手不足感は弱まると予想しています。



資金繰り、設備投資

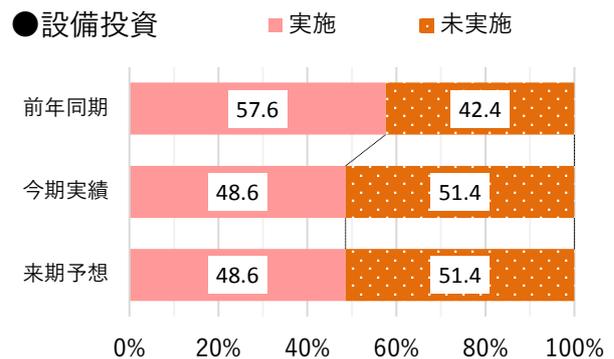
今期の資金繰りDIは▲5.7で、前年同期と比べ8.7ポイント低下しました。

来期は▲2.9で、厳しさが緩和すると予想しています。



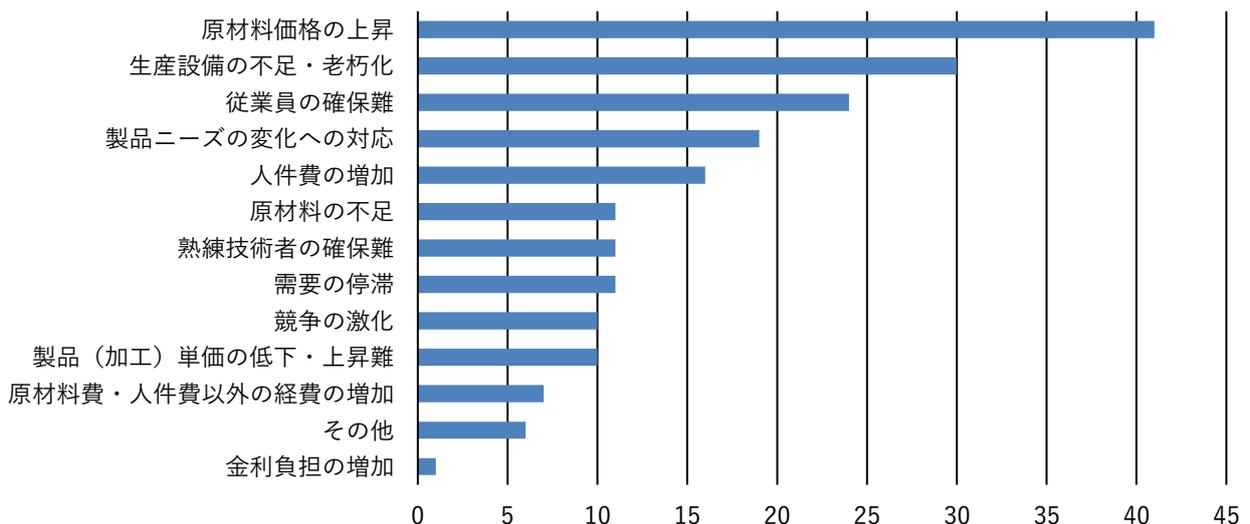
設備投資を実施した企業の割合は48.6%で、前年同期と比べ9.0%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.6%で、今期並みと予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

○今期の状況：好転要因

- ・新商品投入で売上増。（食料品）
- ・取引先が増加した。（食料品）
- ・観光客の入込が安定していた。販売のキャッシュレス環境の整備によって店頭での売上件数と売上高が想定以上に増加し、順調な業績につながった。（飲料）
- ・住宅着工数が微増した。（金属製品）

●今期の状況：悪化要因

- ・原材料の不足・高騰により製品高になり、売上が減少した。（食料品）
- ・7月は好天により好調、8月は低温気味で不調、9月は前年並み。通算で見ると例年並みで相変わらずといったところだが、景気が持続している実感は全くない。（食料品）
- ・原料価格の上昇を受けて製品価格を値上げした結果、出荷量と売上額が減少した。（食料品）
- ・人手不足が深刻化しているが、若手社員の退社動向がどんどん早まっており、今後の懸念が増大している。（飲料）
- ・製品受注は順調な一方で、工事受注は思う様に伸びず、全体的な売上高は、前年を若干下回っている。（金属製品）
- ・原材料（銅合金）の高値安定が続いている。（金属製品）
- ・工事の発注遅れが続き、7月下旬からようやく仕事が増えてきた。売上単価も今ひとつ盛り上げに欠けた。（金属製品）
- ・7月の高温により青果物の一部が不作となったため、当社製品（包装資材）の売上が減少し、採算も悪化する。（紙製品）
- ・水産資源の不漁により、当社製品（包装資材）の売上が減少した。（プラスチック）

○来期の見通し：好転要因

- ・新酒発売に伴い、売上増が期待される。（飲料）
- ・昨年の台風災害の復旧工事に目途が立ち、保留となっていた工事物件が動き出すことを期待している。（金属製品）
- ・住宅着工数が微増する見込み。（金属製品）
- ・8月の盆明け頃より遅れていた物件が出始め、年内は忙しい状況が続く。下半期の受注増加対応と生産性向上のため、老朽化したプラズマ切断機をレーザー切断機に取り換えた。（金属製品）
- ・今期に比べ、売上増加が期待でき、採算も好転する見通しである。（紙製品）

●来期の見通し：悪化要因

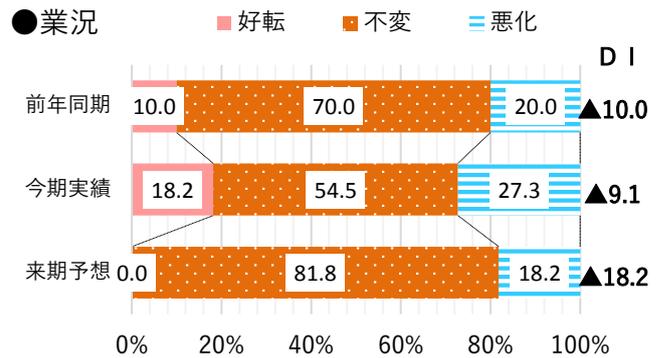
- ・原料価格の上昇を受け、原材料の価格転嫁により出荷量・売上額とも減少する見通し。（食料品）
- ・ますますの原材料不足が予想される。（食料品）
- ・円安、原油高による資材、燃料費の上昇、運賃、パート人件費の高騰により先行きは暗い。（食料品）
- ・運賃、資材関係から値上げの動きが広がりだしており、製造原価、販管費をはじめ、コストアップが急速に進むと見ているが、製品価格を上げられるような経営環境にはない。（飲料）
- ・原材料（銅合金）の高値安定が継続する見込み。（金属製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

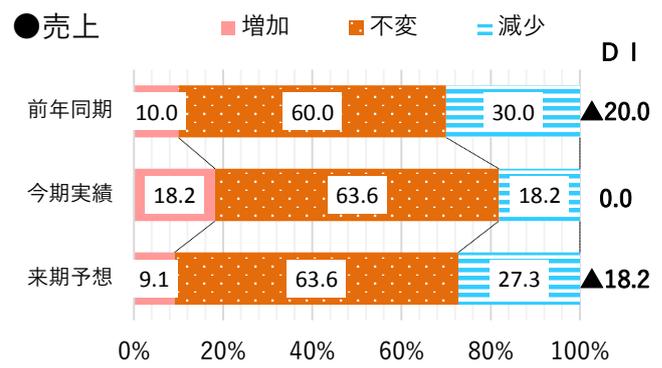
今期(H29.7~9)の業況判断DIは▲9.1で、前年同期(H28.7~9)と比べ0.9ポイント上昇しました。

来期(H29.10~12)は▲18.2で、悪化すると予想しています。



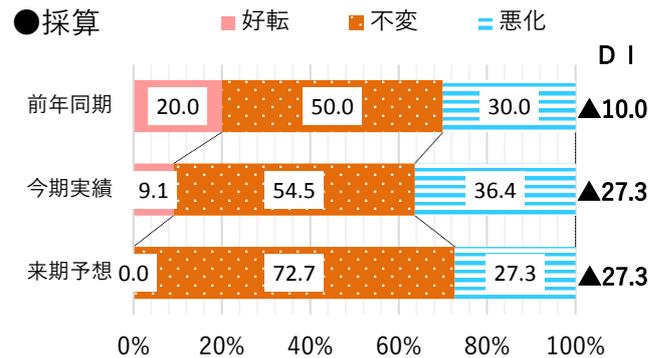
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期は▲18.2で、大幅に減少すると予想しています。

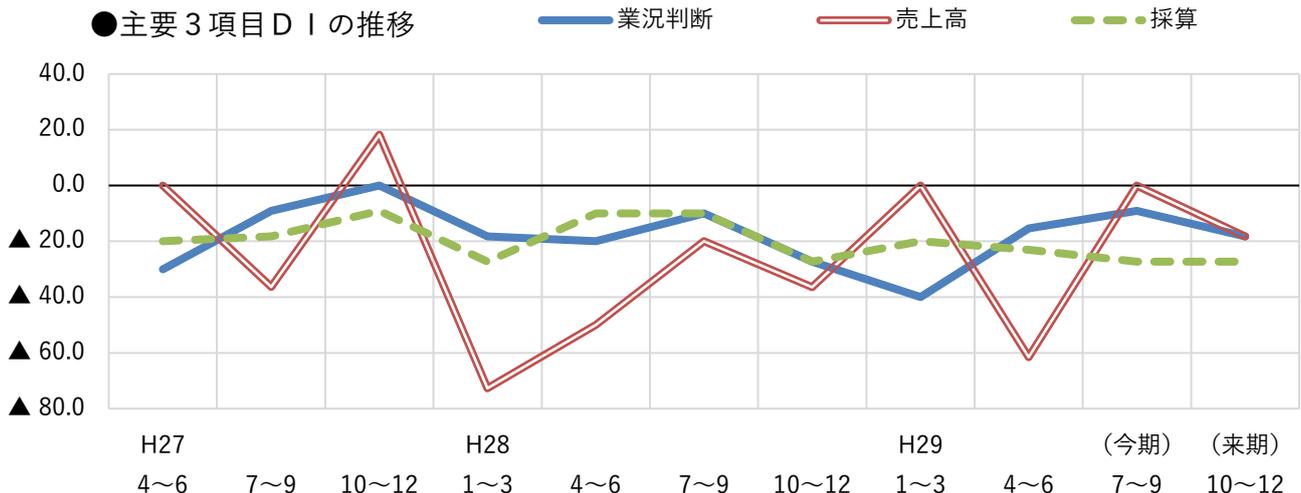


今期の採算DIは▲27.3で、前年同期と比べ▲17.3ポイント低下しました。

来期は▲27.3で、横ばいであると予想しています。



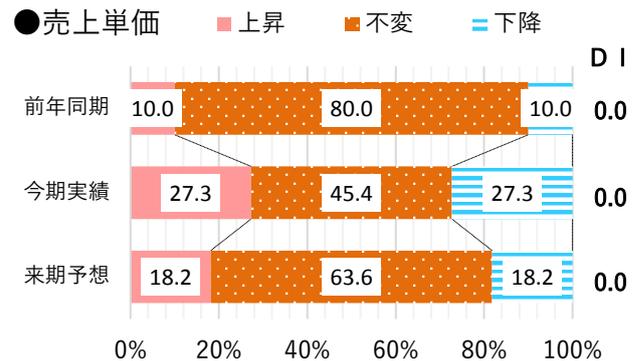
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

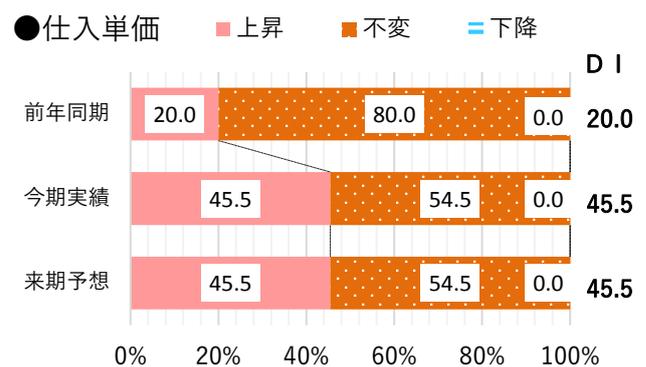
今期の売上単価DIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

来期は0.0で、横ばいであると予想しています。



今期の仕入単価DIは45.5で、前年同期と比べ25.5ポイント上昇しました。

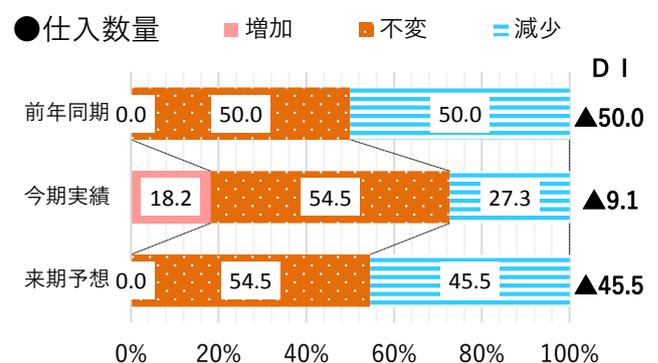
来期は45.5で、上昇感が続くと予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

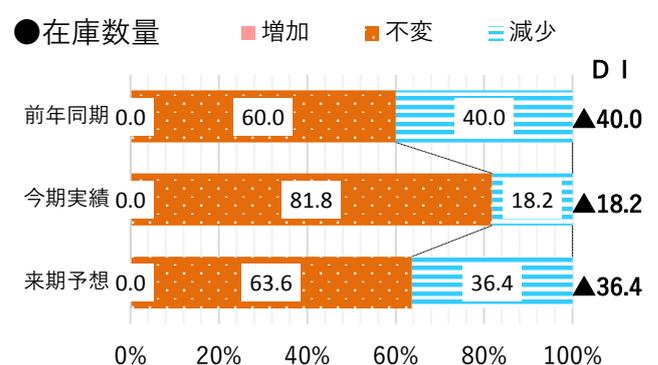
今期の仕入数量DIは▲9.1で、前年同期と比べ40.9ポイント上昇しました。

来期は▲45.5で、大幅に減少すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲18.2で、前年同期と比べ21.8ポイント上昇しました。

来期は▲36.4で、大幅に減少すると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

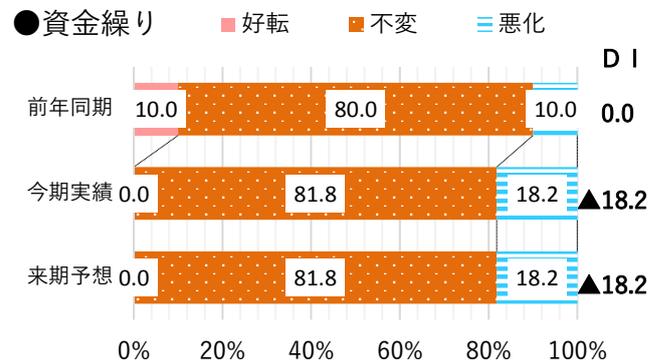
来期は0.0で、横ばいであると予想しています。



資金繰り、設備投資

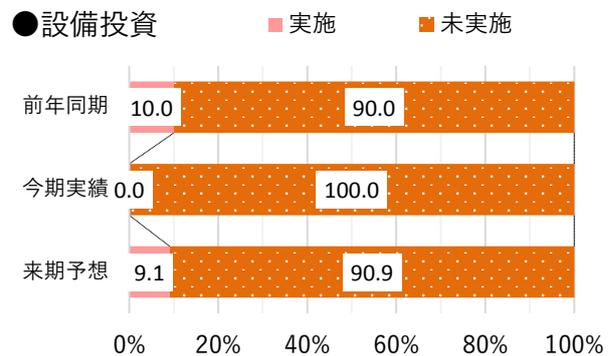
今期の資金繰りDIは▲18.2で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

来期は▲18.2で、横ばいであると予想しています。



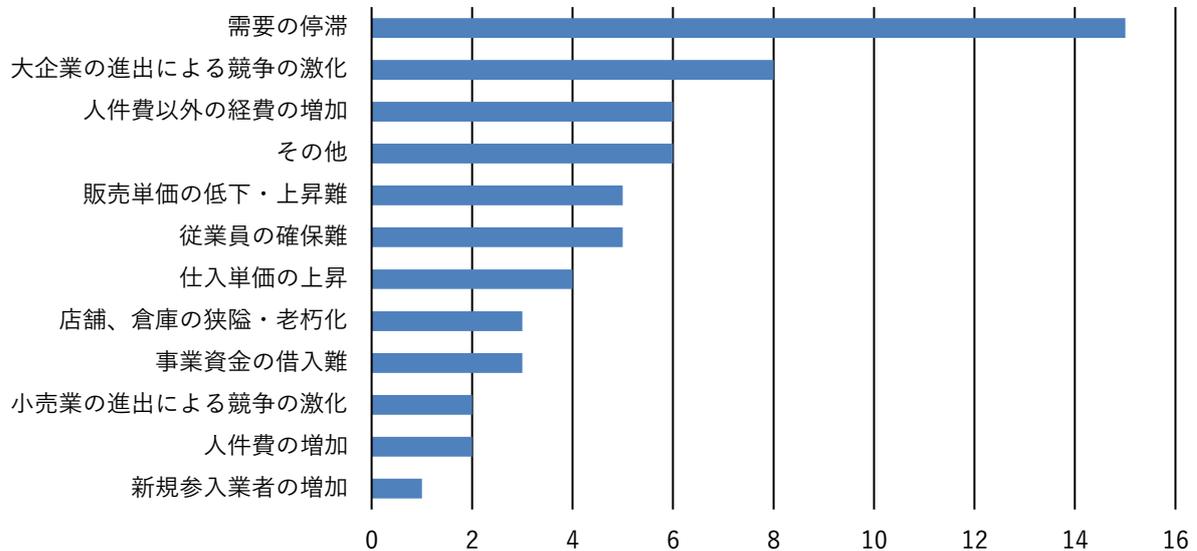
設備投資を実施した企業はなく、前年同期と比べ10.0%減少しました。

来期に設備投資を計画している企業の割合は9.1%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「大企業の進出による競争激化」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

●今期の状況：悪化要因

- ・水産資源の不漁により、原材料が不足、仕入単価が上昇した。（飲食料品）
- ・取引先の業績不振による売上減少、運送費の上昇、新規客先の開拓不振が影響（飲食料品）
- ・小売店から値下げを求められ、逆にメーカーから値上げを言い渡される業種のため、経営は大変厳しい状況である。（農畜産物・水産物）
- ・車検需要が予想を大きく下回った。また、資金繰り・借り換えで満額の融資を受けることが難しくなっている。（自動車部品）
- ・卸売先が減少した。（衣服・身の回り品）
- ・ネット、通信販売に客を奪われている。（事務用品）

○来期の見通し：好転要因

- ・降雪期に入るため、除雪車部品や車の冬季用品の需要に期待したい。（自動車部品）

●来期の見通し：悪化要因

- ・水産資源の不漁により、原材料が不足、仕入単価が上昇する見込み。（飲食料品）
- ・取引先の業績不振による売上減少、新規客先の開拓不振、運送費と最低賃金の上昇が不安要素となっている。（飲食料品）

○その他

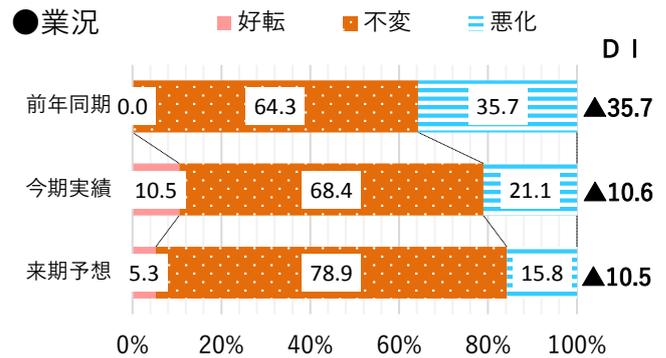
- ・パート従業員は年間所得額103万円を超える労働を敬遠する。休まれると困るが新たな人を雇うわけにもいけないので、配偶者控除限度額の改定等を要望する。（乾物）

小 売 業

業況、売上、採算

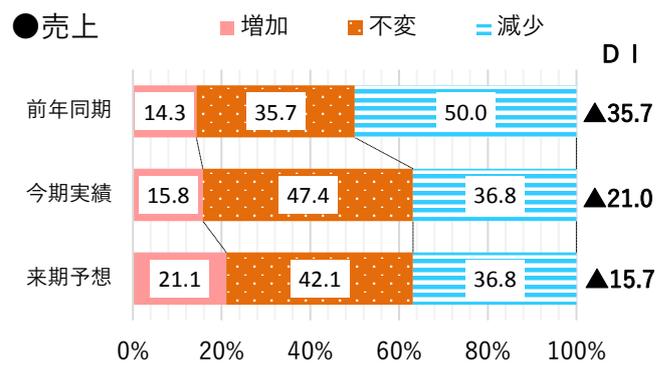
今期(H29.7~9)の業況判断DIは▲10.6で、前年同期(H28.7~9)と比べ25.1ポイント上昇しました。

来期(H29.10~12)は▲10.5で、横ばいであると予想しています。



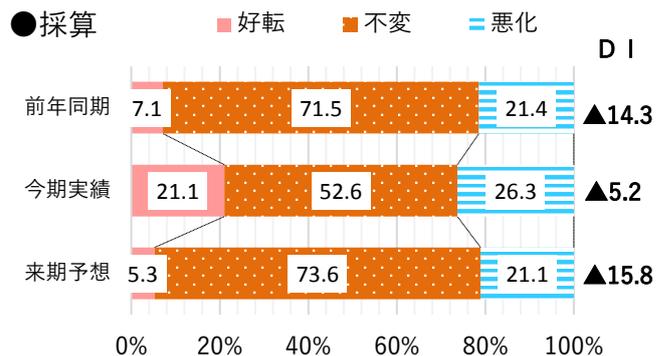
今期の売上DIは▲21.0で、前年同期と比べ14.7ポイント上昇しました。

来期は▲15.7で、回復すると予想しています。

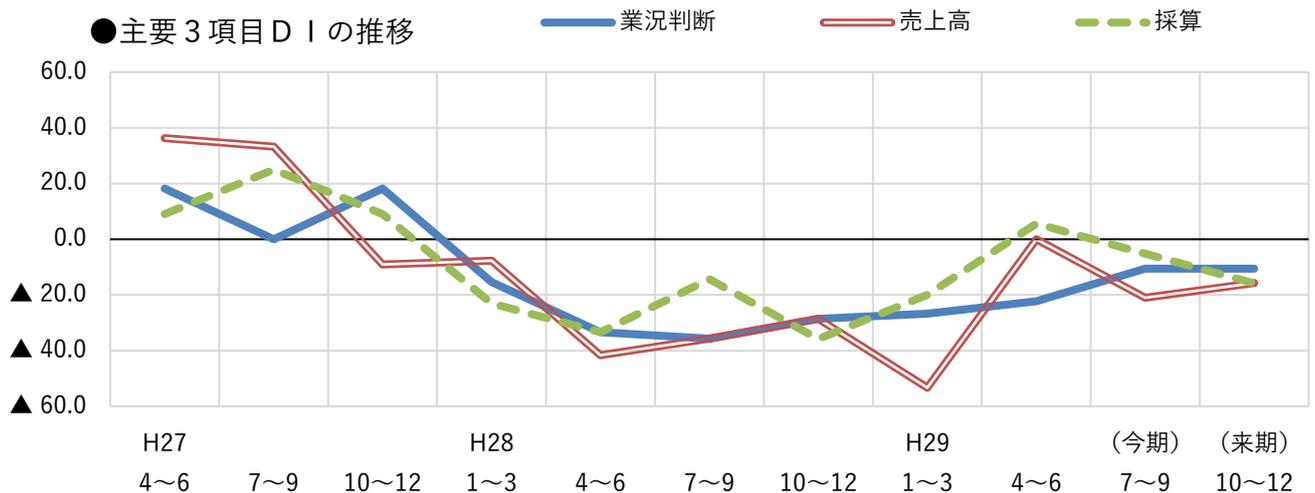


今期の採算DIは▲5.2で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

来期は▲15.8で、悪化すると予想しています。



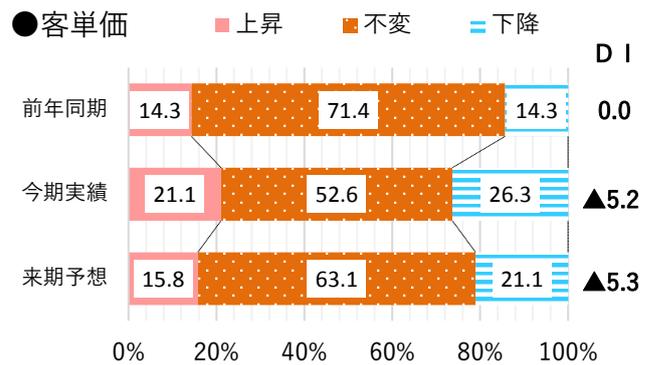
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

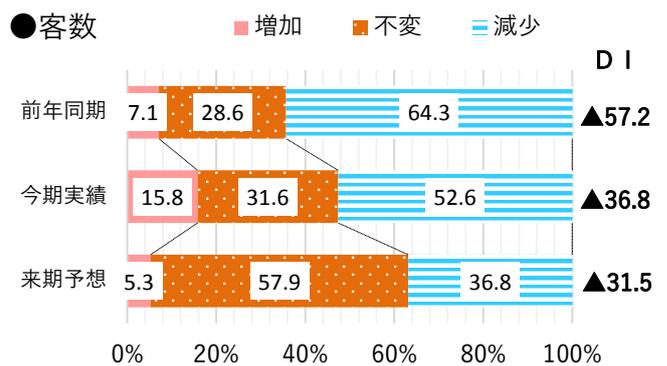
今期の客単価DIは▲5.2で、前年同期と比べ5.2ポイント低下しました。

来期は▲5.3で、ほぼ横ばいであると予想しています。



今期の客数DIは▲36.8で、前年同期と比べ20.4ポイント上昇しました。

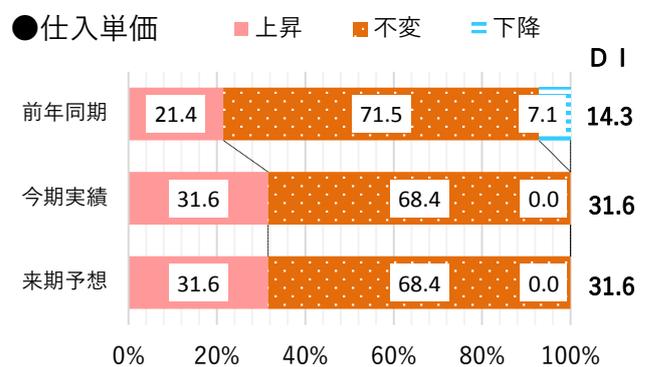
来期は▲31.5で、増加すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

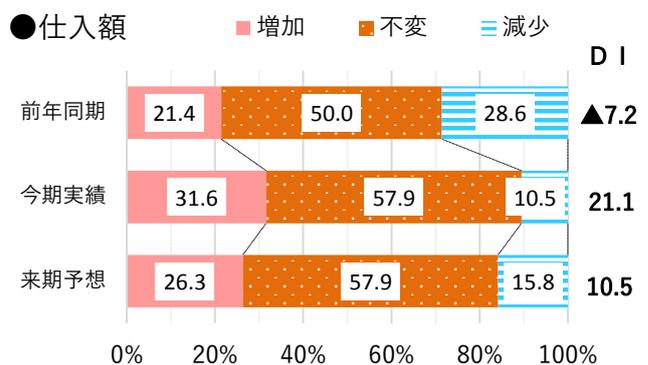
今期の仕入単価DIは31.6で、前年同期と比べ17.3ポイント上昇しました。

来期は31.6で、横ばいであると予想しています。



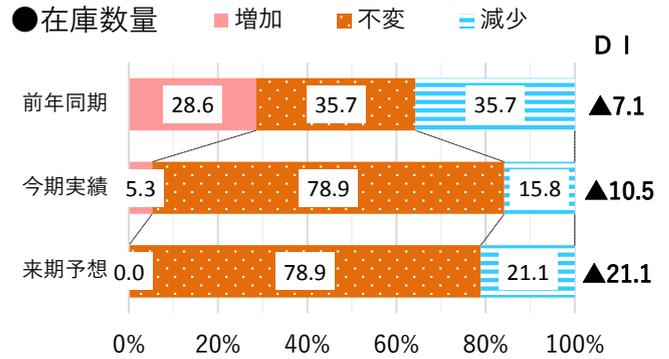
今期の仕入額DIは21.1で、前年同期と比べ28.3ポイント上昇しました。

来期は10.5で、減少すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲10.5で、前年同期と比べ3.4ポイント低下しました。

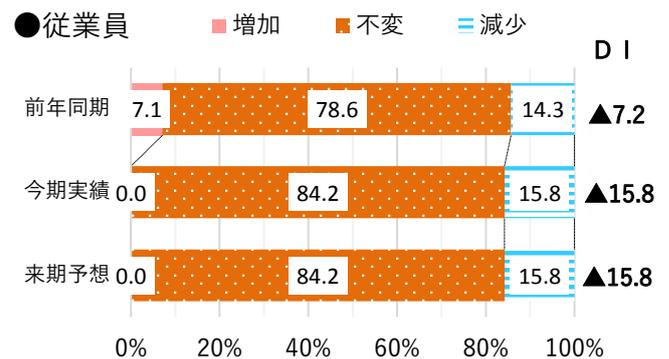
来期は▲21.1で、減少すると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは▲15.8で、前年同期と比べ8.6ポイント低下しました。

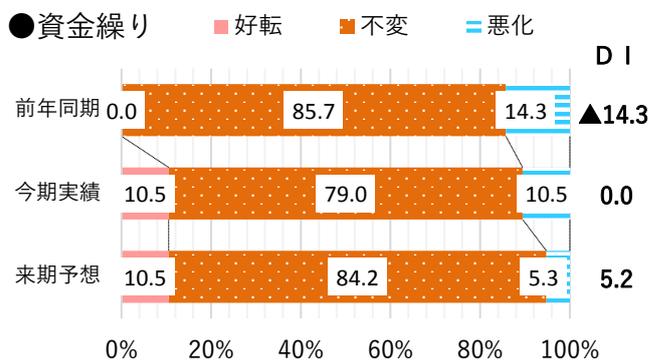
来期は▲15.8で、横ばいであると予想しています。



資金繰り、設備投資

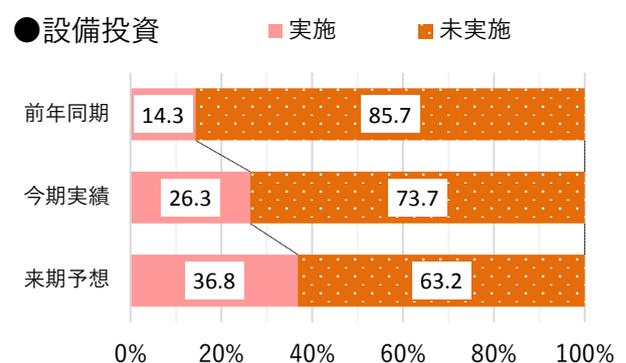
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

来期は5.2で、厳しさが緩和すると予想しています。



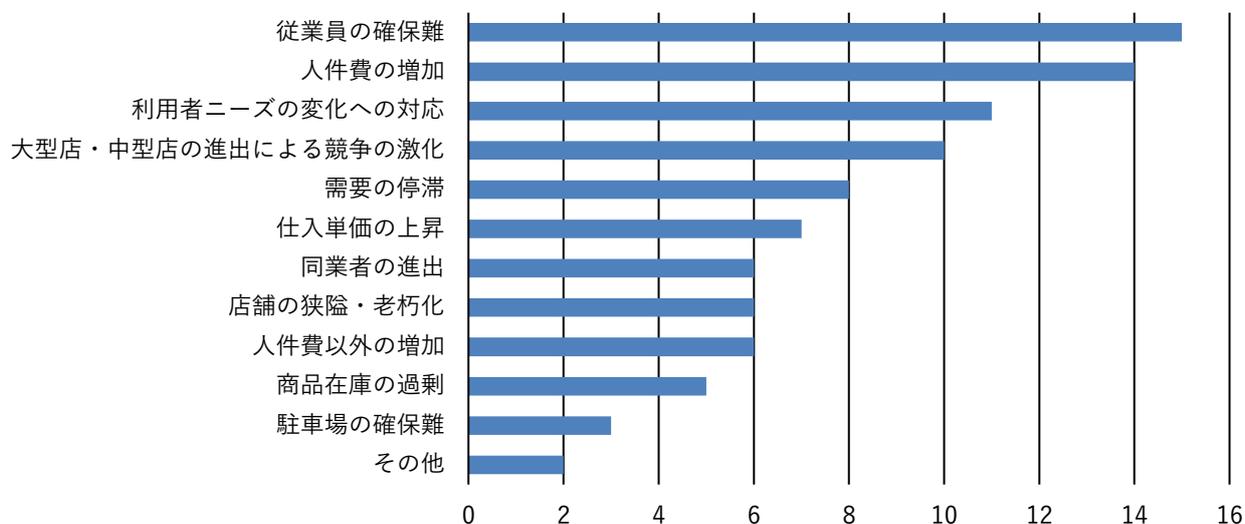
設備投資を実施した企業の割合は26.3%で、前年同期と比べ12.0%増加しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.8%で、今期と比べ増加すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

●今期の状況：悪化要因

- ・ 少子高齢化が進み、不安感を払拭するのに精一杯の状況。（スーパーマーケット）
- ・ たばこの売上が3割減少している。商圈人口も減少している。（コンビニエンスストア）
- ・ 週休2日で募集しても人が集まらず、事業や技術の継承も難しい。（菓子製造・小売）
- ・ ロシアへの輸出が減少していることもあり、売上は最盛期の7割減となっている。また、車を手放す高齢者や若者の車離れにより、自動車整備の需要が減っている。（中古自動車小売）
- ・ 観光消費は良いが、地元消費が思わしくない。インバウンド消費が好調であることは良いが、小樽観光の7割を占める札幌圏からの観光客対策を考える必要がある。（飲食料品小売）
- ・ 中国やベトナムなど製造国の人件費が上昇し、低価格に限界がきている。（衣料品小売）

○来期の見通し：好転要因

- ・ 年末年始の贈答品需要を取り込み、売上増加を目指して頑張ります。（陶磁器・ガラス器小売）

●来期の見通し：悪化要因

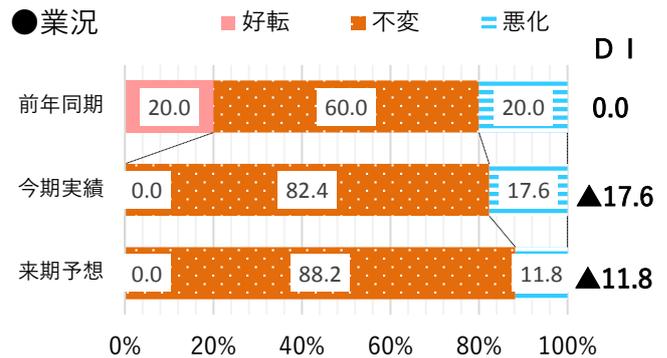
- ・ 原材料の値上げは不安材料ではあるが、特に小麦、バター等乳製品の価格に対しては、TPP等の問題もあり注視している。また、国の指導によりカロリー表示の義務化が控えているが、小売店がカロリー表示に対応することは難しい。（菓子製造・小売）
- ・ 楽観的に見て「不変」に○をつけましたが、選挙の月は不確定要素があり不安です。大企業は別として、中小企業は政治による安定感と、経済上昇傾向を望みます。（靴小売）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

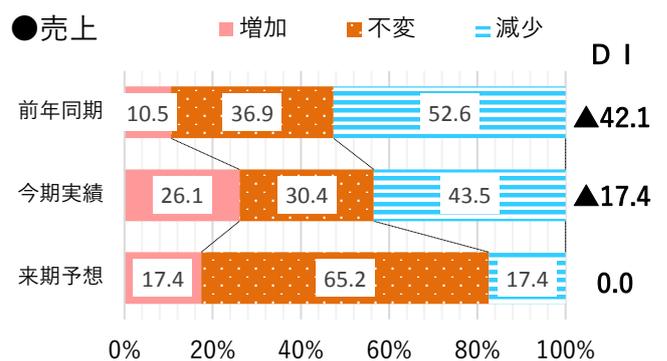
今期（H29.7～9）の業況判断DIは▲17.6で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期（H29.10～12）は▲11.8で、改善すると予想しています。



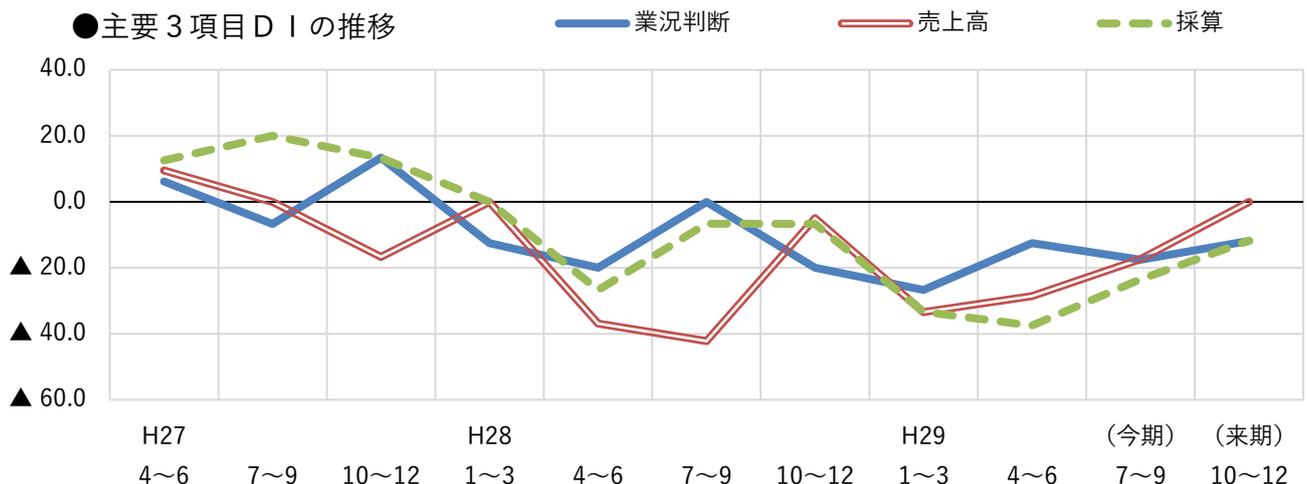
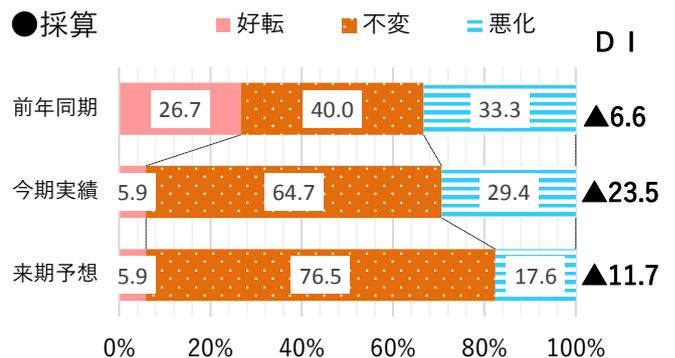
今期の売上高DIは▲17.4で、前年同期と比べ24.7ポイント上昇しました。

来期は0.0で、回復すると予想しています。



今期の採算DIは▲23.5で、前年同期と比べ16.9ポイント低下しました。

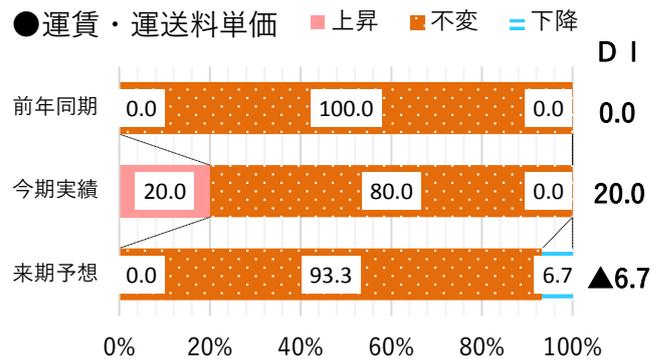
来期は▲11.7で、改善すると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

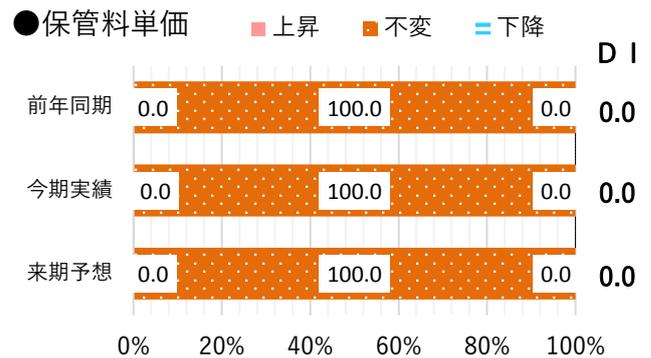
今期の運賃・運送料単価DIは20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

来期は▲6.7で、下降すると予想しています。



今期の保管料単価は0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

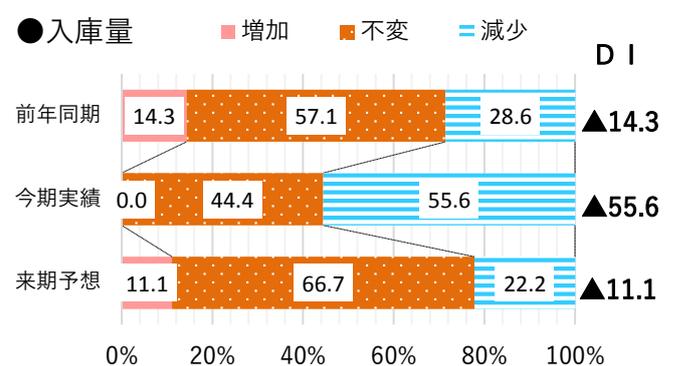
来期は0.0で、横ばいであると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

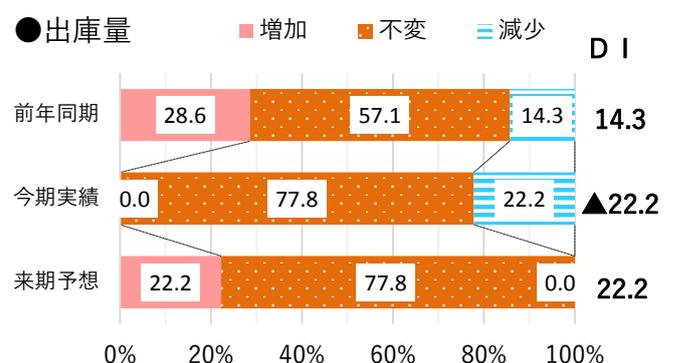
今期の入庫量DIは▲55.6で、前年同期と比べ41.3ポイント低下しました。

来期は▲11.1で、回復すると予想しています。



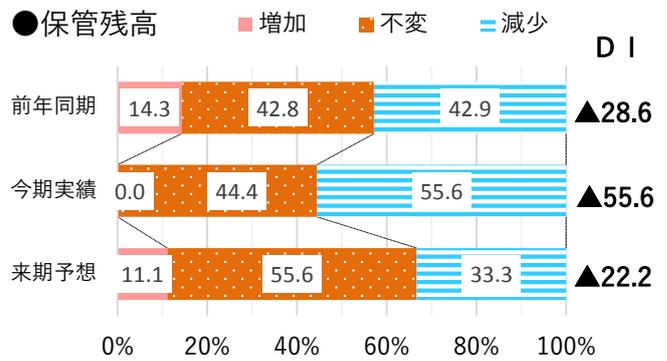
今期の出庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ36.5ポイント低下しました。

来期は22.2で、増加すると予想しています。



今期の保管残高DIは▲55.6で、前年同期と比べ27.0ポイント低下しました。

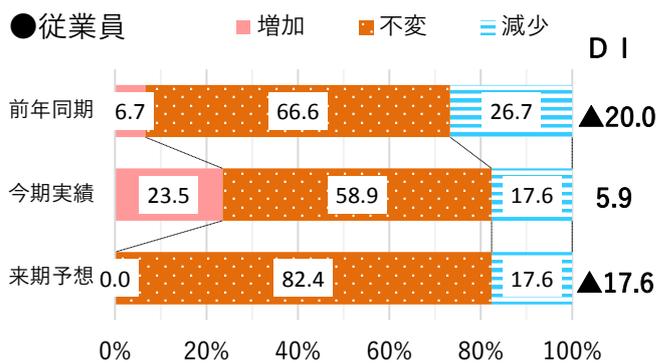
来期は▲22.2で、回復すると予想しています。



従業員

今期の従業員DIは5.9で、前年同期と比べ25.9ポイント増加しました。

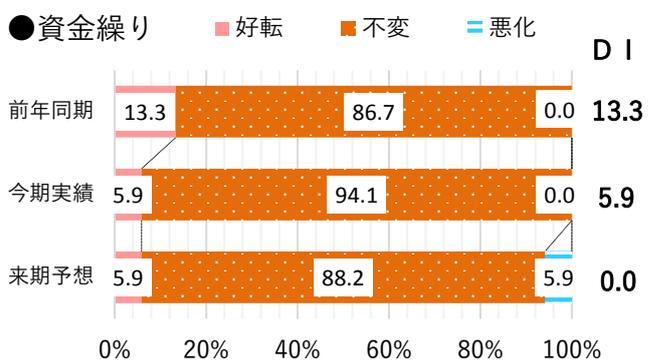
来期は▲17.6で、人手不足感が増すと予想しています。



資金繰り、設備投資

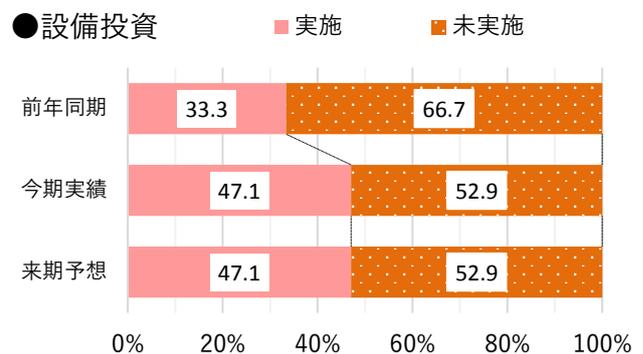
今期の資金繰りDIは5.9で、前年同期と比べ7.4ポイント減少しました。

来期は0.0で、厳しさが増すと予想しています。



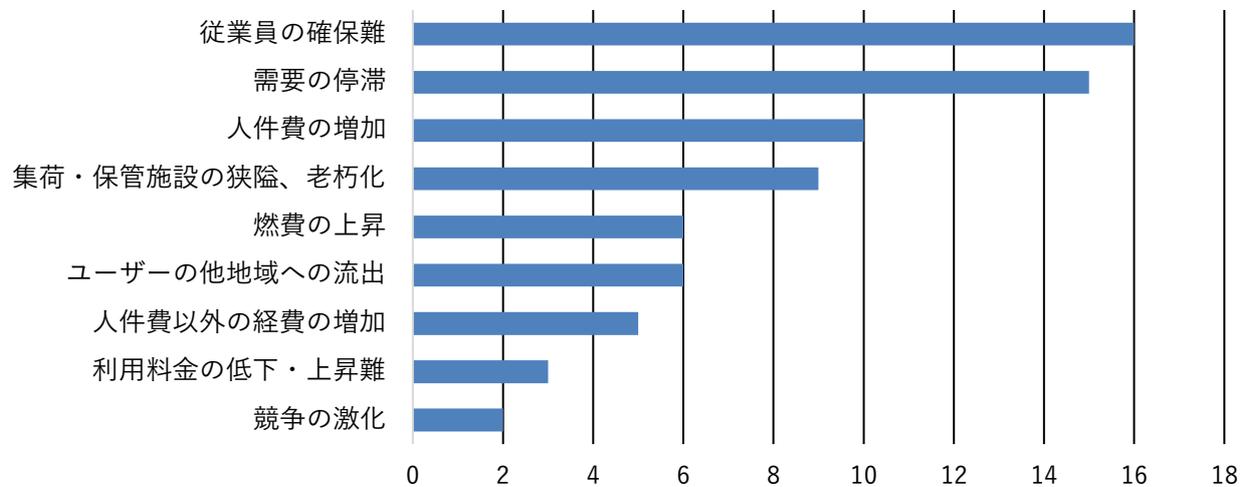
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ13.8%増加しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「土地、建物、付帯施設（同位）」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は47.1%で、今期並みであると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

○今期の状況：好転要因

- ・新造船投入とダイヤ改正により、貨物・旅客の利用が増加した。（水運）
- ・昨夏は台風被害で農作物の輸送量が減少したが、今夏の輸送量は回復した。（道路貨物運送）
- ・高速道路建設現場の土砂運搬業務の輸送量が多く、売上増加に繋がった。（道路貨物運送）

●今期の状況：悪化要因

- ・インバウンドの入込みは多いが、地域内への経済的還元が浸透していないように思える。（道路旅客輸送）
- ・観光客は殆どタクシーを利用しないので、観光営業する機会が減った。日曜日の利用率が一番低い。（道路旅客輸送）
- ・フェリーを利用する物流業者は増えているが、貨物の荷揚げは背後地に札幌がある石狩にシフトしてきており、今後もこの流れは変わらないと思う。（道路貨物運送）
- ・貨物量の減少により、倉庫及び輸送量が減少した。（倉庫・道路貨物運送）
- ・入庫量が減少した。（倉庫）
- ・前年同期の業績が好調だったため、比較すると今期は悪化した。（倉庫）

○来期の見通し：好転要因

- ・降雪期頃までに需要のピークを迎えると思われる。（道路貨物運送）
- ・入庫量及び出庫量の増加が見込まれる。（倉庫）
- ・今期より売上は減少するものの、対前年比では増加が見込まれる。（水運）

●来期の見通し：悪化要因

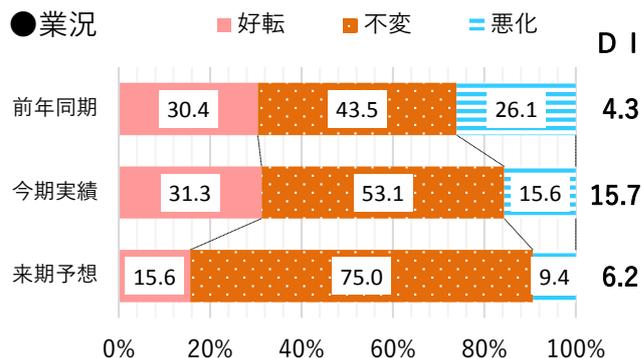
- ・高速道路建設現場での作業が終わり、業務量が減少する可能性がある。（道路貨物運送）

観光・サービス業

業況、売上、採算

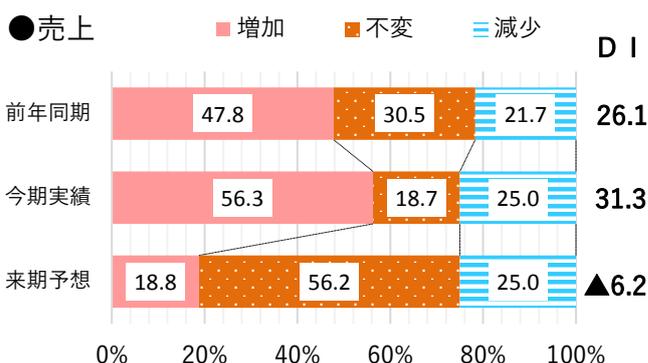
今期（H29.7～9）の業況判断DIは15.7で、前年同期（H28.7～9）と比べ11.4ポイント上昇しました。

来期（H29.10～12）は6.2で、悪化すると予想しています。



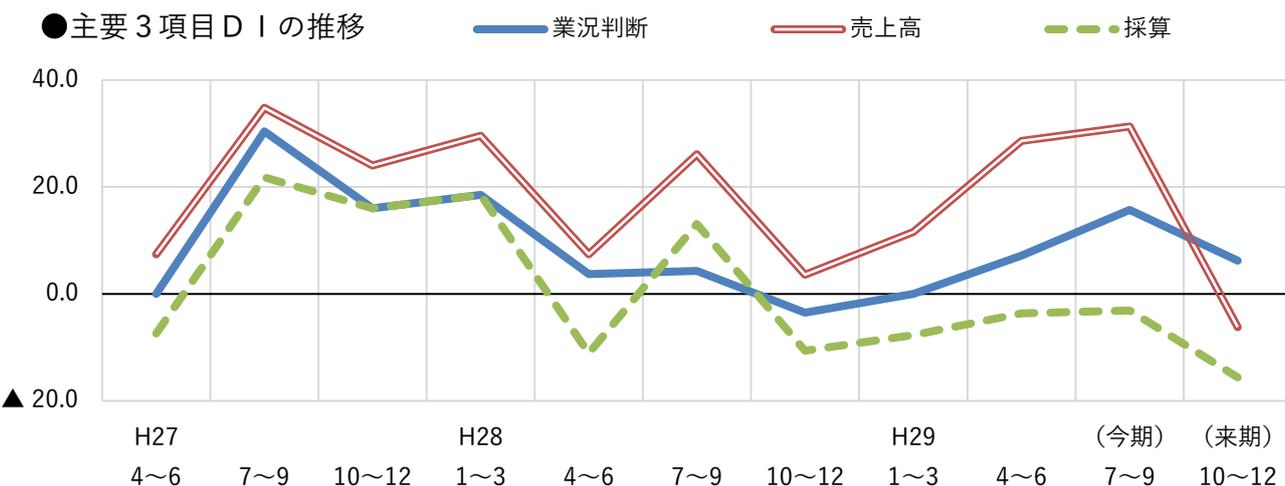
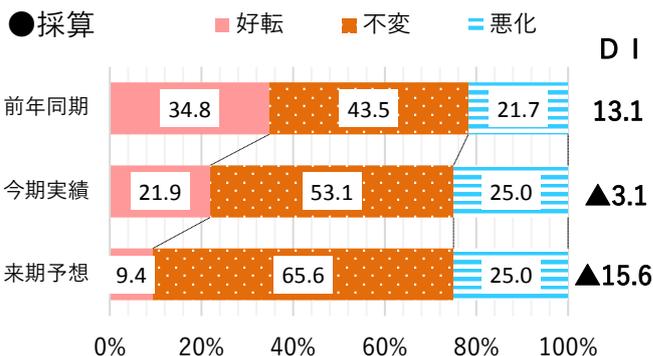
今期の売上高DIは31.3で、前年同期と比べ5.2ポイント上昇しました。

来期は▲6.2で、大幅に減少すると予想しています。



今期の採算DIは▲3.1で、前年同期と比べ16.2ポイント低下しました。

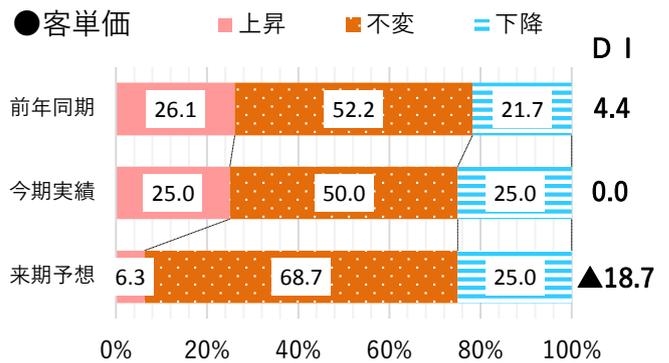
来期は▲15.6で、悪化すると予想しています。



客単価、利用客数

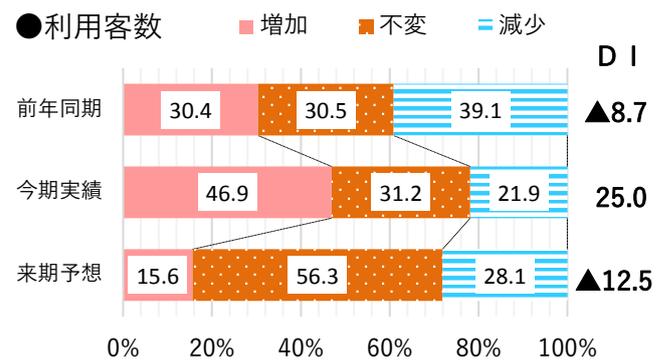
今期の客単価DIは0.0で、前年同期と比べ4.4ポイント低下しました。

来期は▲18.7で、大幅に下降すると予想しています。



今期の利用客数DIは25.0で、前年同期と比べ33.7ポイント上昇しました。

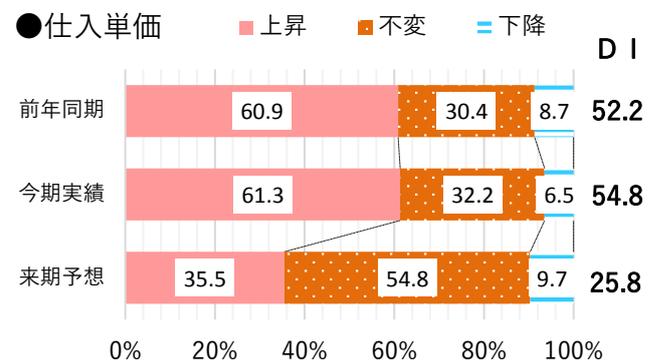
来期は▲12.5で、大幅に減少すると予想しています。



仕入単価、従業員

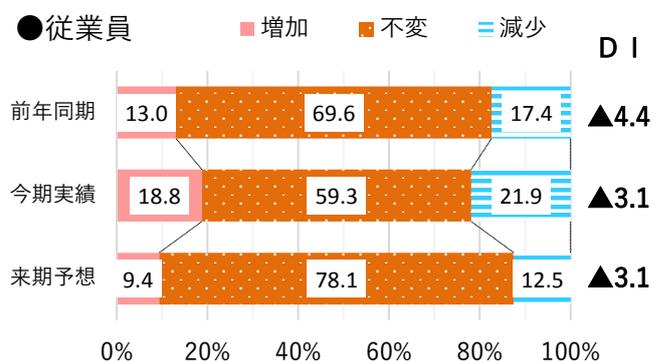
今期の仕入単価DIは54.8で、前年同期と比べ2.6ポイント上昇しました。

来期は25.8で、仕入単価の上昇感は弱まると予想しています。



今期の従業員数DIは▲3.1で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

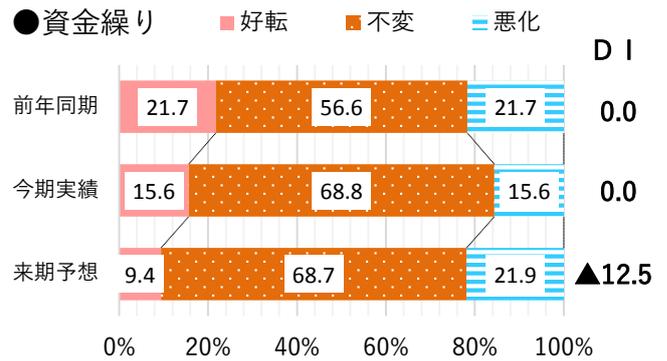
来期は▲3.1と横ばいで、人手不足感は継続すると予想しています。



資金繰り、設備投資

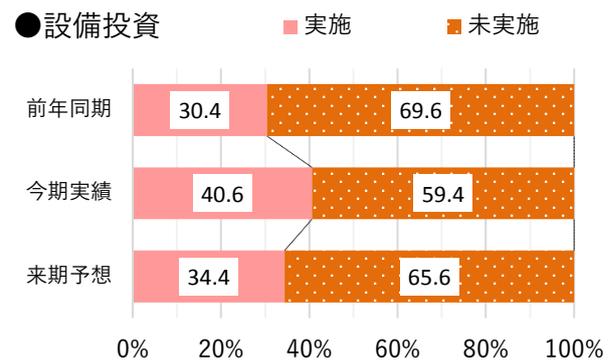
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期比で横ばいとなりました。

来期は▲12.5で、厳しさが増すと予想しています。



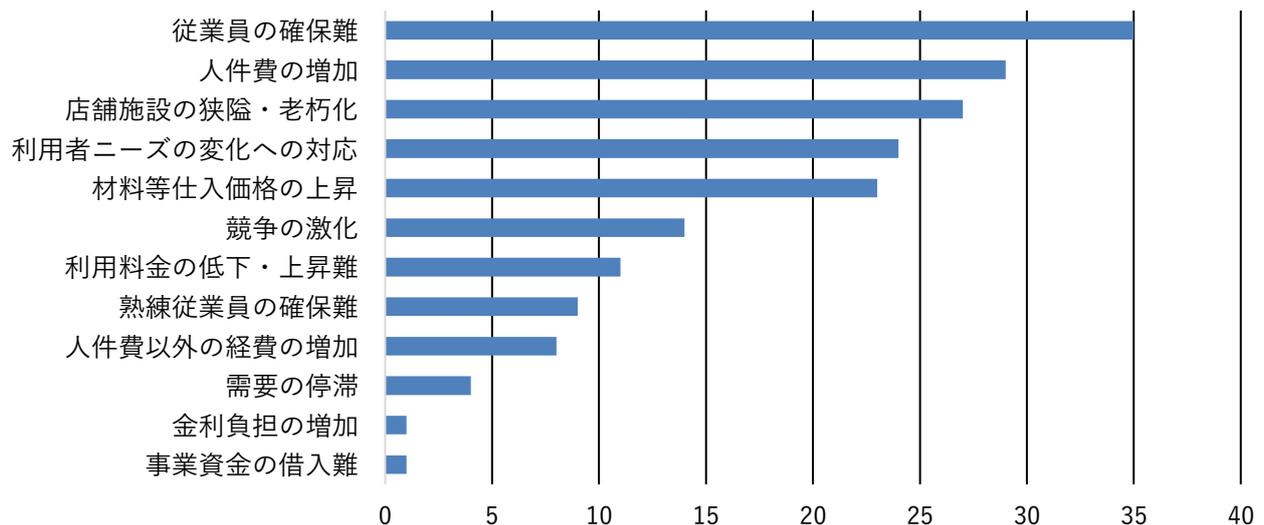
設備投資を実施した企業の割合は40.6%で、前年同期と比べ10.4%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は34.4%で、今期と比べ6.2%減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

○今期の状況：好転要因

- ・宿泊客は増加したが客単価が伸びなかった。粗利は微増した。（ホテル）
- ・観光客と地元客の消費を上手く取り込めたほか、イベントへの参加や人員を継続的に確保できたことで業績が上向いた。（土産品）
- ・JRを利用し徒歩で市内を散策する観光客の当店への来店が継続している。変化している客層に合わせた商品構成もこまめに対応できている。（土産品）
- ・テレビ取材の放送日がお彼岸と重なり、売上増加につながった。（土産品）

●今期の状況：悪化要因

- ・仕入単価（食材、清掃クリーニング等）と人件費は全体的に上昇傾向。（ホテル）
- ・業績悪化の原因は、①人件費の増大、②原材料仕入単価の高騰、③資材の高騰、④日本人観光客の減少。（土産品）
- ・ウインドーショッピングばかりで商品の購入に至らない。（土産品）
- ・業況は停滞している。将来的にインバウンドを狙わないと今の売上を維持するのは難しい。（飲食店）

○来期の見通し：好転要因

- ・冬季は例年来客数が減少する時期ではあるが、近年増加傾向にある外国人観光客に期待している。（社会教育施設）
- ・外国人（アジア圏）の購買意欲が高まっている。（土産品）
- ・自店舗のリブランディングを実施する。本店の改装、販促イベントの強化、スタッフの人員増により増収増益を見込む。（土産品）

●来期の見通し：悪化要因

- ・人手不足が不安材料。（飲食）
- ・秋から冬にかけて寒くなるため、客数の増加は期待はできない。（飲食）
- ・オフシーズンとなり、インバウンドの数も大幅増は見込めない。客単価の伸び悩み、仕入単価の上昇も続くと思われる。（ホテル）

○その他

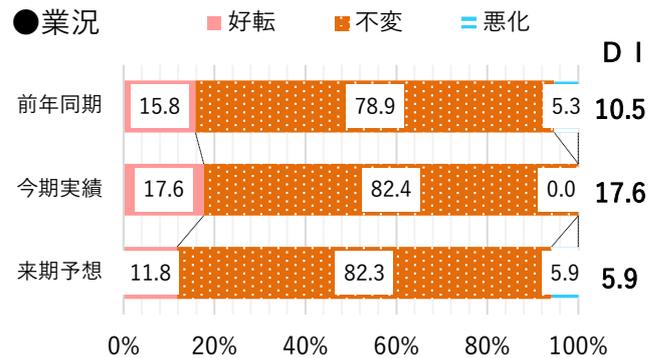
- ・最低賃金の引き上げは上昇率を吸収できなくなると、人を雇えなくなり、従業員が抜けた穴を他の従業員が補填するしかなくなる。賃金の上昇率を吸収できなくなった結果の廃業が増えてきている。（ビルメンテナンス）

建設業

業況、売上、採算

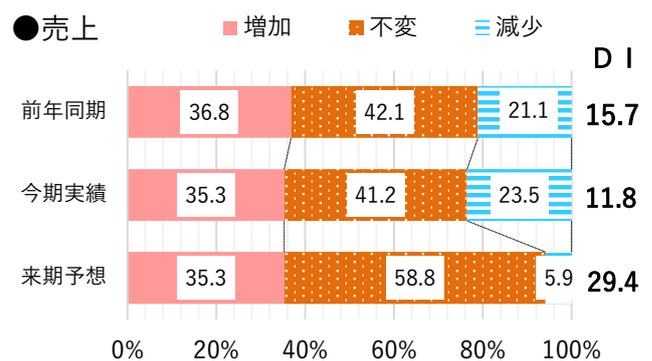
今期（H29.7～9）の業況判断DIは17.6で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期（H29.10～12）のDIは5.9で、悪化すると予想しています。



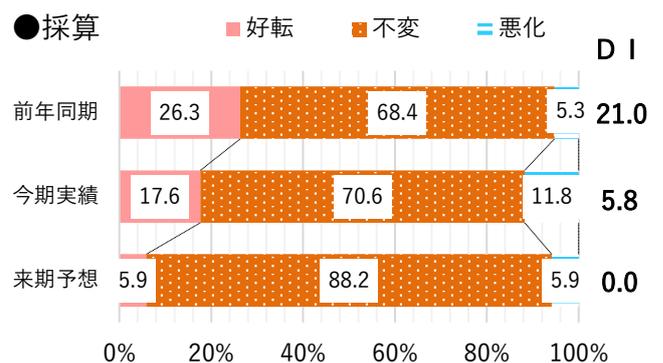
今期の売上高DIは11.8で、前年同期と比べ3.9ポイント低下しました。

来期のDIは29.4で、大幅に増加すると予想しています。

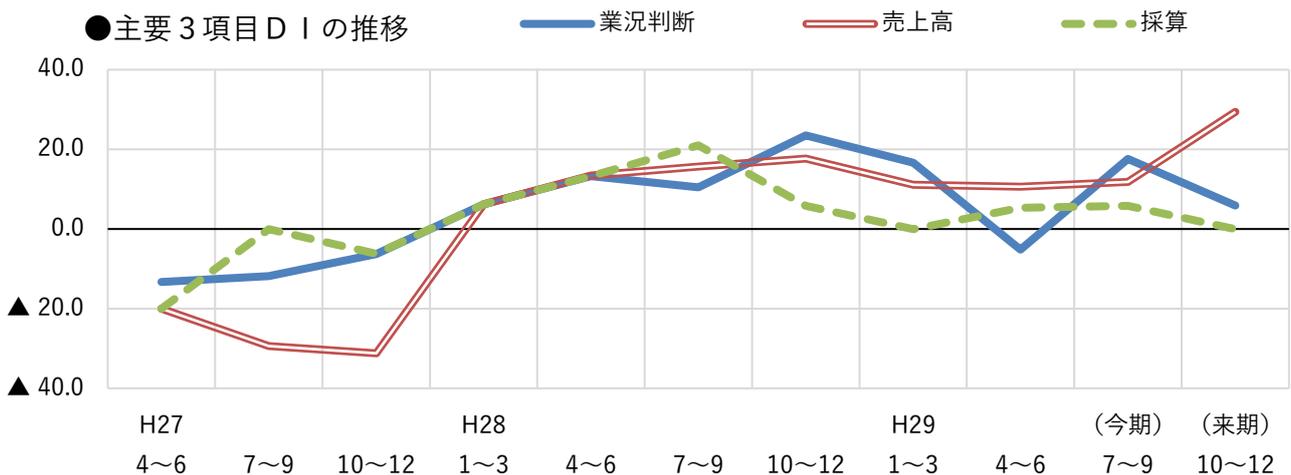


今期の採算DIは5.8で、前年同期と比べ15.2ポイント低下しました。

来期のDIは0.0で、悪化すると予想しています。

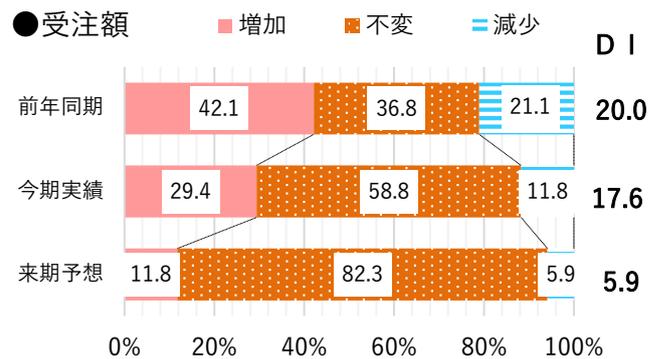


●主要3項目DIの推移

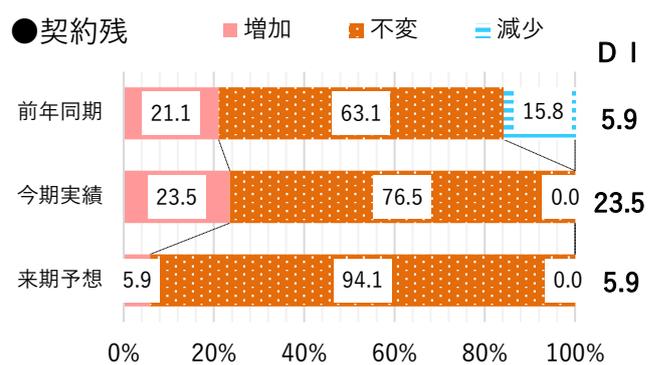


受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）

今期の受注額DIは17.6で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。
来期のDIは5.9で、減少すると予想しています。

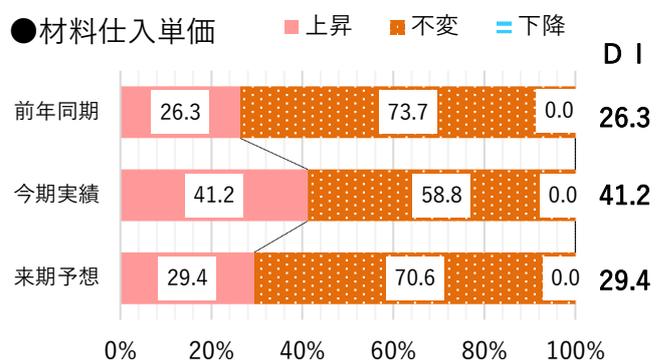


今期の契約残DIは23.5で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。
来期のDIは5.9で、減少すると予想しています。

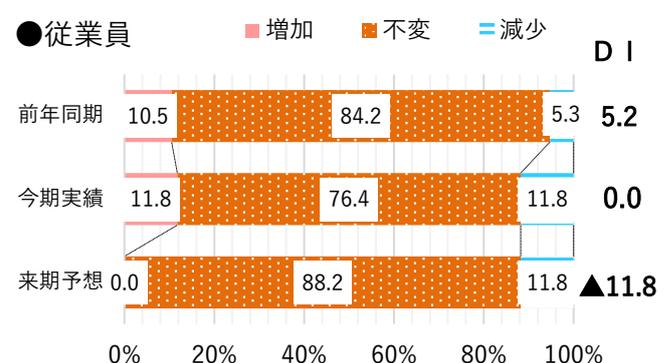


材料仕入単価、従業員

今期の材料仕入単価DIは41.2で、前年同期と比べ14.9ポイント上昇しました。
来期のDIは29.4で、上昇感は弱まると予想しています。



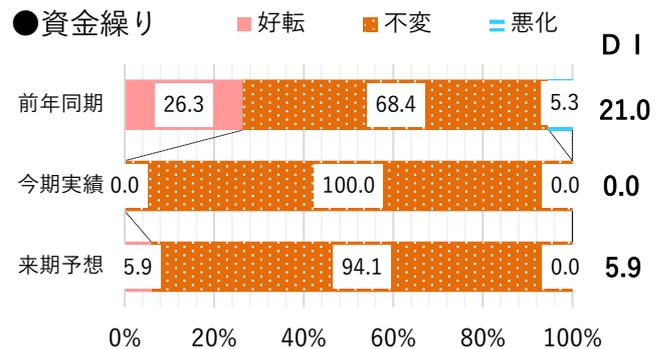
今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ5.2ポイント低下しました。
来期のDIは▲11.8で、人手不足感が強まると予想しています。



資金繰り、設備投資

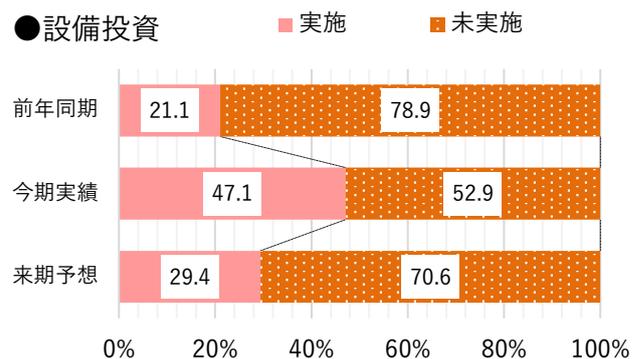
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ21.0ポイント低下しました。

来期のDIは5.9で、改善すると予想しています。



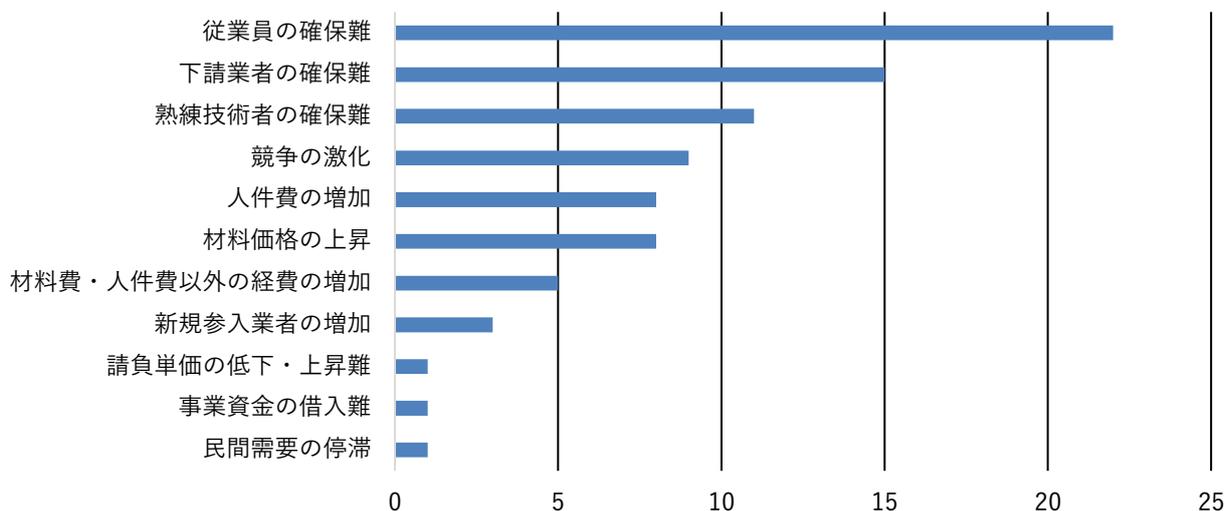
設備投資を実施した企業の割合は47.1%で、前年同期と比べ26.0%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建設機材、OA機器（同位）」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は29.4%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「下請業者の確保難」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

○今期の状況：好転要因

- ・受注額が増加した。（一般土木工事業）

●今期の状況：悪化要因

- ・従業員確保が最大の問題であり、募集しても集まらない。生コンなどの高騰により2次製品の価格が上昇している。また、アスファルトは10年前と比較すると倍近くになっている。小樽市の入札は最低制限価格で並び、くじ引きで決まるケースが多くなっている。（一般土木工事）

●来期の見通し：悪化要因

- ・受注額が減少する見込み。人件費の増加も悪化材料。（一般土木工事業）

市内企業倒産状況（負債1千万円以上）

< 7 月 >

卸売業（負債6,400万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

< 8 月 >

製造業（負債：2億2,500万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

< 9 月 >

なし

帝国データバンク調べ

【 市 内 企 業 倒 産 状 況 表 】

期 間	件 数	負債総額（万円）	対前年比	
			件 数	
7 月	1	6,400	件 数	1
（前年同月）	0	0	負債額	6,400
8 月	1	22,500	件 数	▲ 1
（前年同月）	2	1,700	負債額	20,800
9 月	0	0	件 数	▲ 2
（前年同月）	2	22,500	負債額	▲ 22,500
期 間 合 計	2	28,900	件 数	▲ 2
（前年同期間）	4	24,200	負債額	4,700

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

< 建築確認申請受付件数（住宅以外も含む） >

区分	7月	8月	9月	期間合計	前年同期比
平成29年	40	32	23	95	17
平成28年	25	29	24	78	

< 新設着工住宅戸数 >

区分	7月	8月	9月	期間合計	前年同期比
平成29年	15棟48戸	34棟55戸	23棟41戸	72棟144戸	棟：13
平成28年	24棟55戸	17棟32戸	18棟37戸	59棟124戸	戸：20

小樽市調べ